

特集 現代の若年層に合わせた 育成法を考える



編集責任

吉田学園医療歯科専門学校 臨床工学科

工藤元嗣 KUDO, Mototsugu

近年、医療機器の高度化や多様化に伴い、臨床工学技士には幅広い医療機器の保守管理業務の徹底に加え、各種生命維持管理装置の操作に関しても、患者の病態管理を含めた総合的な管理が求められている。このことから、現代の若年層はこれまでより幅広い分野の習熟を、入職後の短い期間に達成しなければならない。

一方、指導を受ける側の若年層においては、これまでの世代と育ってきた環境に大きな変化が生じている。知識や技能の習得を主眼に置いていた詰め込み型の教育から、思考力や問題解決能力の成熟を重視した「新学力観」による教育改革が進み、一時は学習量が大幅に削減されたことで、学力低下が問題視されるようになった。また、18歳人口の激減により、高校、大学進学競争率が低下したことで、失敗や怒られることにも慣れていない若年層も増加した。さらに、スマートフォンやインターネットの普及により、コミュニケーションに苦手意識をもつ若年層の割合も増加したといわれている。

本特集は、環境の変遷によって生じている新人指導における課題とその対応方法について着目したものである。

砂川市立病院の伊藤仁弥先生には、指導される側の新人が感じていることについて、新人世代に実施したアンケート結果を基にまとめていただいた。また、新人指導を行ううえで新人と指導者双方が意識すべきコミュニケーションのとり方について、指導を受ける新人側については杏林大学の中島章夫先生に、指導する先輩・上司側については自治医科大学附属さいたま医療センターの百瀬直樹先生に、それぞれご執筆いただいた。さらに、新人指導の実践例として、神戸市立西神戸医療センターの藤井清孝先生に「マネジメント」を中心にした教育についてご報告いただいた。

また、実際に指導するうえで指導者側が意識すべきことや具体的な指導技術について、教育工学の見地から済生会横浜市東部病院の山田紀昭先生にご執筆いただいた。筆者は、新人のやる気を引き出す指導方法の具体例について解説した。

本特集が、新人教育に課題を感じている施設のお役に立ててもらえることを願うとともに、指導する側、指導される側双方が新人教育について考えるきっかけとなることを期待して、巻頭言とさせていただきます。